

公益財団法人 小田急財団 2018 年度研究助成
研究成果報告書

子育てと両立しやすい働き方とその支援に関する研究
—育児中女性が働く場としての NPO 活動の検証—

跡見学園女子大学 マネジメント学部 生活環境マネジメント学科 専任講師

赤松 瑞枝

<目次>

社会的背景と研究の目的	1
研究テーマと助成対象分野の関わり	2
研究の方法と調査対象の選定プロセス	2
調査及び調査対象の概要	2
調査結果の分析及び考察を通した NPO の検証	6
今後の課題	15
謝辞	15
参考文献	15

社会的背景と研究の目的

わが国では少子高齢化の進行に伴って労働人口が急速に減少しており、その解消が喫緊の課題となっている。対策の一つとして女性の労働市場参入促進が挙げられるが、この実現にあたっては7割を占める出産前後の離職（総務省統計局 2018）を食い止めると同時に、現状26%程度にとどまる（厚生労働省職業安定局）離職後の再就職率を高める必要がある。

これまでの研究結果から企業正社員を目指した再就職が難しいこと（赤松 2017）、企業においては復職後のキャリア縮小や離職が少なくないこと（赤松 2018）が明らかになった。その原因は、子どもの預け先と職場間の移動時間の長さ、時間的制約を受けざるを得ないことへの職場の理解不足、育児中女性を対象にしたキャリアアップの仕組みの未整備であった。このことから、筆者は女性のキャリア形成の場を「企業に正社員として勤めること」以外にも拡大させて多様化するのが有効であるという仮説を立てた。企業に正社員として勤める他、時短勤務、派遣社員、パートタイマー、在宅勤務、ボランティア活動、PTA活動、NPOへの所属等、各自が育児とのバランスが取りやすい働き方をライフステージごとに選択できるのが望ましい社会の在り方と言えよう。このような社会を実現するには、女性のキャリアを「大学・専門学校等を卒業後に所属した組織での就業」に限定せず、幅広く解釈すること、ライフステージの移行に伴う働き方の変更を可能にすることに加えて、上記の組織・団体が程度の差こそあれ、いずれも女性のキャリア構築に資する環境を有していることが望ましい。具体的には、実践的な知識やスキルが身につく、社会貢献度の高い活動ができる、働きに応じた報酬が得られる等が想定される。近年女性のキャリアを子育ても含め幅広くとらえる必要があると言われ始めたが（文部科学省 2002）、この社会的認識を高めるためには、環境整備と所属して活動する女性の意識改革を同時に行う必要があると考える。

中でも筆者が着目したのがNPO法人である。NPO法人は女性産業と形容されるように女性が運営主体となることが多い組織であり、地域に密着して社会的課題解決を目的に活動する。週あたり勤務時間が40時間未満とするものがほぼ半数を占め拘束時間が短いこと、片道の通勤時間が30分未満のものが7割を占めること、経理、広報、渉外、企画等のスキルが身につくとの評価もなされていること（鈴木 2016）から、居住地域で活動している法人に所属すれば、育児と両立しながら働き、実践的な知識や経験を蓄積することが可能になりそうな環境である。他方、設立当初はメンバーが無償で活動するケースが多いため、事業収益を報酬として支払うことが可能な組織であるにも関わらずボランティア団体と誤認されがちであるという問題を抱えている。実際に活動費用の獲得や事業収益を上げるのに苦勞する法人が多いことが報告されており（小野 2016）、この点をいかに克服するかが課題と言える。しかしながらこういった課題を育児中女性のキャリア形成という視点で分析した研究は管見の限り見られない。

以上より、本研究ではNPO法人を対象とし、育児との両立が可能な就業の場として成立するために求められる条件を明らかにすることを目的とする。

研究テーマと助成対象分野の関わり

育児中女性の再就職支援という本研究課題は、持続可能な都市の形成という概念により、助成対象分野である「都市の快適化」に結びつくにとらえている。

快適化は「問題のない満足な状態にすること」と言い換えられる。都市の問題解決として現在注目されているテーマは「持続可能な都市の実現」である。そしてそのために解決すべき課題として、効率的な土地利用、自動車交通の削減、効率的な資源利用、自然生態系の回復、地域文化の保全のほか、コミュニティのエンパワメント、市民の生活ニーズにこたえる社会的公正の確保が挙げられている（清水他 2006）。筆者は「ヒト」の視点から生活の快適性を追究しているため、「市民の生活ニーズにこたえる社会的公正の確保」に着目した。そして自身の研究テーマでもある未だ公正が確保されているとは言い難い女性の働き方の検討により都市の形成要素の一つである「女性」が抱える生活上の一問題の解決策を示すことができれば、持続可能な都市の在り方の一端を示せるという観点から、その成果を「都市の快適化」に反映できると考えた。

研究の方法と調査対象の選定プロセス

研究の目的遂行のために、育児中且つ未就業の女性に活動紹介の場を提供したり、働く機会を提供している NPO 法人を対象として実態調査を行うこととした。

調査対象の選定にあたっては、まず内閣府の検索サイトを使用し、法人名称や定款記載の活動目的に「女性」が含まれている 703 法人を抽出した。次に解散した 7 団体及び定款無記入の 2 団体を除いた 694 団体の定款に目を通し、文章中最頻出のキーワードをメイン活動テーマとして設定、テーマごとに団体数を整理した。さらにキャリア支援に相当する「職業能力・雇用機会提供」をテーマに活動している団体 75 件について最新（2018 年度あるいは 2017 年度）の事業報告書及び団体のホームページや Facebook を閲覧し、詳細な活動内容を確認、育児中且つ未就業の女性を対象に活動している団体を抽出した（表 1）。そして筆者が埼玉県居住であることから、関東地方で活動する団体から順に調査依頼をし、神奈川県横浜市で、作品販売や活動を紹介するイベントをしている NPO 法人スーリールファムから了承を得た。

調査及び調査対象の概要

実施した調査を表 2、図 1 に、調査対象 NPO 法人の概要を表 3 に示す。まずヒアリング調査により、当該 NPO 法人設立の経緯や活動目的、活動内容、活動メンバーのキャリア変遷、育児と仕事の両立にあたっての苦勞、NPO 活動や今後のキャリアへの考え方を把握した。次に観察調査により、法人が開催するイベント当日の運営状況や来場者の状況を、アンケート調査によりイベントに対する来場者の評価を把握した。最後に法人メンバーを対象としたワークショップを開催し、アンケート集計結果を報告するとともにイベントの成功点、反省点について話し合うことで、メンバー自らが次回開催に向けての課題と解決策を見

表1 育児中且つ未就業女性の再就職支援を目的に活動しているNPO法人

分類	NPO名称	所在地	活動内容
就業提供型	ドラキャリ	愛知県 名古屋市	就職の斡旋
	日光市女性の起業応援	栃木県 日光市	通信販売事業における就労機会の場を提供
	ママの働き方応援隊	兵庫県 神戸市	教育機関の教員として働く場を提供
	倉敷友愛会	岡山県 倉敷市	公共施設での就労機会を提供
取組紹介型	To Going Concern for Women	埼玉県 吉川市	イベントにブース出展する機会を提供
	シーズネットワーク	東京都 多摩市	働く機会に関する情報を提供。メンバー持ち込み企画実施の協力
	スーリールファム	神奈川県 横浜市	イベントにブース出展する機会を提供
	Women'sサポート	静岡県 沼津市	イベントにブース出展する機会を提供
	エランヴィタル	徳島県 阿南市	フリーマーケットに出展する機会を提供、テレワーカー講座の実施
	ママのキャリアセンター	福岡県 福岡市	ハンドメイド作品の販売機会提供

表2 本研究で実施した調査の概要

調査種類	ヒアリング調査	観察調査	アンケート調査	ワークショップ
実施時期	2019年 8月～9月	2019年 10月27日	2019年 10月27日	2019年 11月28日
実施目的	設立の経緯、活動目的 活動内容、活動メンバー のキャリア変遷、育児と 仕事の両立にあたっての 苦労、NPO活動や今後 のキャリアへの考え方 を把握すること			アンケート結果をも とにイベントの現状 を理解し、今後の改 良点をメンバーに話 し合ってもらうこと
回答者数/ 依頼者数	12名 / 12名			102名 / 150名 9名 / 10名
倫理審査 承認No	19-003			19-007

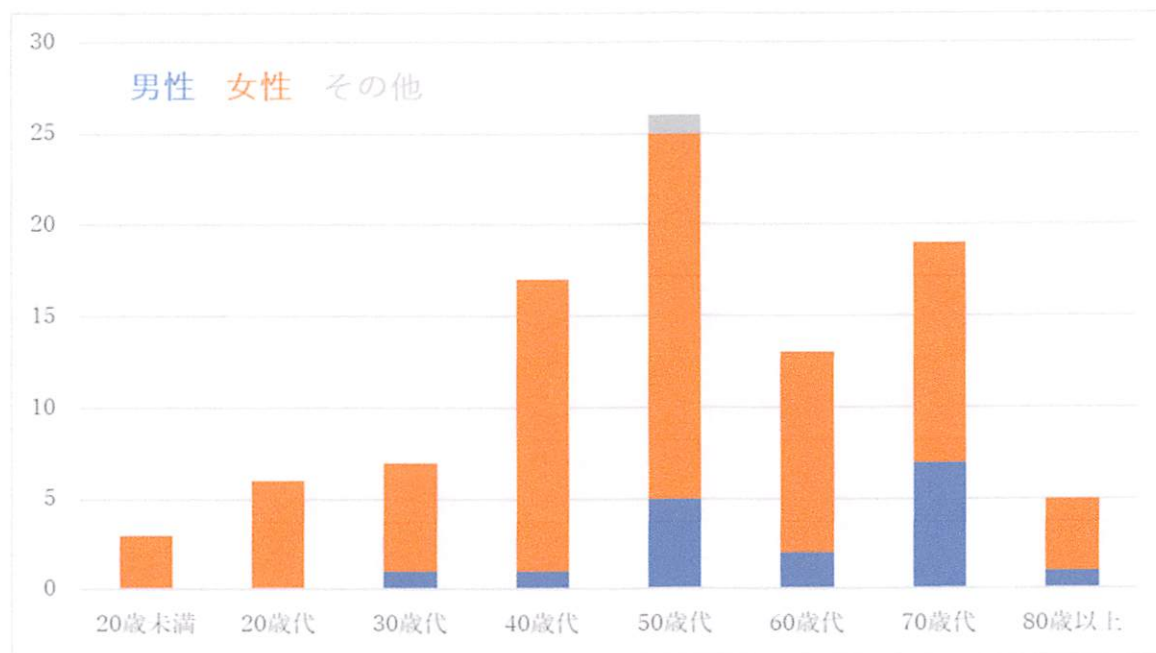


図1 アンケート調査回答者の属性（年齢と性別）

- ・無回答6名を除く96名の結果
- ・男性17名、女性78名、その他（性的マイノリティを配慮）1名
- ・50代女性が20名と最も多く、次いで40代女性が16名、70代女性が12名、60代女性が11名。

表3 調査対象NPOの概要

法人名称	特定非営利活動法人スーリールファム（Sourire Femme）＊ ＊「La femme souriante（笑顔の女性）」という仏語を元にした造語	
事業開始	2017年 4月	
活動 メンバー	設立 メンバー	理事長1名、副理事長1名、理事4名、監事1名 7名
	イベント メンバー	運営スタッフ 11名 出展・出演者 8名 19名
	理事長、副理事長、理事の3名が本研究の共同研究者主催の「コミュニティ・カフェ起業塾」受講生として出会う。カフェ起業は困難で断念したものの、講座終了後も定期的に集まって社会貢献できる企画を模索するために話し合いや情報交換を続けた。その結果、各自が経験した仕事や社会活動のキャリアを少しずつ持ち寄り、女性や高齢者を元気にするための活動を行うという方針が確定。賛同する者を集め、NPO法人を立ち上げた。	
	高齡化する地域社会を明るく元気にする。 健康長寿の実現のためには、自ら楽しみを見つけて自分を喜ばせることが重要と考えた。自分が楽しむと周囲を笑顔に出来、人が集まり、そのつながりで地域社会が輝く。中でも、子育てや介護・仕事との両立に悩み、自分を抑えて頑張ってしまう女性に楽しんで笑顔になってもらうことを目指すことにした。	
	活動目標	ヒエラルキーから外れて輝く女性を増やす 現在の会社組織には、就業時間や就業場所、キャリアの積み方などの点で子育て等の実状に寄り添っていない部分が多い。無理やり現状に合わせてラッシュアワーにベビーカーを乗せるのは必ずしも正解と思えない。働く≠雇われるという選択肢もあると考え、従前のキャリアにこだわりすぎず新しい勉強や活動にチャレンジし、それらを通して新しい自分を発見、地域社会に一步踏み出す育児中女性を増やしていきたい、と考えた。
活動実態	年2回、「大人の文化祭」という名称のイベントを開催。メンバー等の活動を集約・披露・PRする。 その他市の助成事業獲得にチャレンジしている。	

ヒアリング調査協力者は、設立メンバー5名、運営スタッフ4名、出展・出演者3名の合計12名である。
 メンバーは50歳代で夫婦と子どものいる家族構成、子どもは末子が高校生、大学生、社会人というケースが多い
 イベント名は当初の「女性の活動見本市」から改訂。

出せるよう支援した。調査はいずれも跡見学園女子大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

法人開催イベントの概要を表4、添付1、添付2に示す。2019年10月で5回目の開催と定期的に継続開催されており、来場者数は初回を除き150名から250名の間を推移している。ブース出展や講演を行った育児中の女性達からは、観察調査及びワークショップ実施時に、来場者との交流を通して「販売ルートが拡大した」「新規顧客を獲得出来た」「新規活動の機会を得た」「広報の新たなアイデアが浮かんだ」という感想が寄せられており、育児中女性の再就職を支援するという活動目的に見合う成果を生む有益な企画となっていることが示された。図2、表5に示すように、年齢や性別にかかわらず9割の来場者から「楽しめた」との評価を受けている。

調査結果の分析及び考察を通したNPOの検証

NPO法人が育児との両立が可能な就業の場として成立するために求められる条件として、(1) キャリア中断やキャリア再構築を経験している女性達の積極的参入(2) PDCA サイクルの導入と定着(3) 企業との連携(4) 第三者による活動支援の4点を挙げる。

以下にその根拠を示す。

NPOの活動メンバーの8割が、均等法第一世代の女性であり、彼女らは全員出産や育児によるキャリアの中断を経験した。しかしその後も資格取得のために学習したり、経験を積むためにアルバイトしたりといったチャレンジを繰り返した結果、自分の意思でセカンドキャリアを構築している(図3)。この経験から子育て中でも女性自身が希望するのであれば、どのような形で社会復帰すべきであり、そのために必要な支援は積極的に周囲がすべきであるという価値観を持っていることが聞き取れた。仕事と育児の両立の難しさについても理解があり、各家庭の都合を忌憚なく伝え合い、相談して活動への取り組み状況を調整できるようになっている。このことから、「育児とのバランスが取りやすい働き方が可能になるNPO活動」の実現にあたっては、自らがキャリア中断やキャリア再構築を経験している女性達の積極的参入が重要になると言える。

一方、NPO以外にも収入につながる職業を持つ女性達が活動しているゆえに、メンバーが揃って意見交換や情報共有をする機会が少ないというデメリットが見出された。イベントの企画、準備、運営を一部のメンバーのみで請け負うため、現状の問題点やその背景について全員が共通の認識を持ち、今後の方針について多角的に意見交換することが困難になっていた。この点を危惧する声がヒアリング対象者から少なからず挙げられ、これらの懸念は来場者からの「出展内容に統一性がなく、何をやっているかよくわからなかった」という評価やメンバーからの「直前にタイムスケジュールと仕事の割り振り表をもらったが全体像や細かな点の把握ができなかったので動きにくく、臨機応変な対応もできなかった。」

表4 調査対象NPOが実施するイベント「大人の文化祭」の概要

開催時期	春（4月ないし5月）：通称「春フェス！」 秋（10月ないし11月）：通称「秋フェス！」
開催場所	横浜市開港記念会館（国指定重要文化財） 神奈川県横浜市中区 みなとみらい線「日本大通り」駅下車徒歩1分 講堂（481名収容）と1階会議室数部屋を使用
開催時間	概ね10：00～16：30 昼食（お弁当やパン）の販売あり。
構成	講堂：トークショー、コンサート、特別講演等を有料開催 会議室：ブース会場。展示、販売、講演、実演が行われる。一部有料 出展数は15前後。 * ブース出展料は5,000円。法人の賛助会員になると3,000円、正会員になると無料。
来場者数 推移	第1回：2017年11月 80名 第2回：2018年5月 150名 第3回：2018年10月 250名 第4回：2019年4月 150名 第5回：2019年10月 200名

出かけてみよう！人に会おう！楽しもう！チャレンジするあなたを応援します。

NPO法人
sourire femme
スーリール
ファム

「自分で楽しみを見つけ、
周囲を笑顔にする」
そんな活動の広がりや、
高齢化する地域社会を
明るく元気にするはず。
キャリアを重ねた
女性たちのそうした活動を紹介し、
交流するイベントです

どなたでも
ご自由に入場
いただけます

秋フェス！～テーマ「和」 添付1
令和元年 10月27日 日
10:00～16:30
「街角ピアノ」は9:20スタート

会場：
横浜市開港記念会館
講堂と1号会議室 ほか（ブース会場）

「初めてでもコワくない！ 歌舞伎鑑賞のイロハ」

買いチケットの買い方から作品の選び方まで

講師：仲野マリさん（歌舞伎ライター）

入場料：落語会含め1,800円



歌舞伎など年100本以上の舞台を観劇、坂東玉三郎、市川海老蔵ほかの
歌舞伎俳優や、宝塚トップなどのインタビュー記事・劇評を執筆。作品
のテーマに踏み込みつつ観客の視点も重視したわかりやすい劇評に定
評がある。著書「恋と歌舞伎と女の事情」（2017年 東海出版研究所）。

懐かしの紙芝居（無料）

紙しばいや もっちゃん

紙しばい師のオーディションで魅せられた
「黄金バット」を忘れられず、2015年4月
に、ひとりて「紙しばいや もっちゃん」を
立ち上げる。昭和の古い紙しばいを紹介
するとともに、オリジナル紙芝居も発表。
紙しばいという日本文化紹介を目指す。



講堂
13:00～13:50

1号会議室
11時から
紙芝居実演
続けて、おしゃべり
タイム

ブース会場は
入場無料！



※写真はイメージです

よこはま野菜販売
旬の横浜野菜のプチマルシェ

場テラス

生産者の想いと消費者の想いをつなげる
街中マルシェ。

※NPO法人スーリールファムは「産地地消よこはま野菜
プロジェクト」（横浜市産地消ビジネス創
出支援事業として採択）で横浜農産を応援しています。

手ぬぐい&舞扇の
プチコレクション展示



2

1号
会議室

ジャッキを使った「共助」の力
竹内工業株式会社

救助用品の三種の神器「パール・のこ
ぎり・ジャッキ」。災害が発生したと
きに、お互いを助け合える道具の一
つである「ジャッキ」をご紹介します。



1号
会議室

カッサ体験 2
(iCassa 愛かっさ)

頭、首、肩体験 10分 1,000円



1号
会議室

あなたはどのタイプに
住みたい？＜研究展示＞

跡見学園女子大学 赤松ゼミ
一人暮らし女子大生が暮らしや
すい住まいを研究中。アンケー
ト調査から本学学生の希望を3タ
イプに分類。既存物件を使って
具現化、模型も手作りしました。



1号
会議室

「脳卒中ピアサポートで退院後の
不安を解消してみませんか？」

ライフパーソナルカウンセラー
横木みち子さん
脳卒中経験者と話すピアサポ
ートカウンセリングについてのプ
レゼンテーション

脳卒中になってしまった人へ
経験者によるカウンセリング

講堂
11:45～
12:00
無料

浮世絵アート鑑賞会
アート・ユニット カナ・カナ

「浮世絵の中で何が起きている
る!？」気づいたことを参加者の
皆さんと対話することで観察力・
発想力が高まる楽しい鑑賞方法
です。所要時間30分
参加費 一人500円



1号
会議室

着物の部屋

着物に親しむコーナーです。
お気軽にお楽しみください。



2号
会議室

街角ピアノ

横浜をピアノの音色あふれる
街に、講堂をリラックスした
空間にしたいと演奏者が集ま
りました（演奏予約は終了）。
スターウォーズやキングアン
ドプリンスから、ジャズの名
曲、ショパンやベートーヴェ
ンをお楽しみください。



講堂
9:20～
11:30
無料

絵手紙の作品展示と3
絵手紙体験ワークショップ

中村地域ケアプラザ 磯村会
どなたでも無料でご参加いただ
けます。



1号
会議室

占いの部屋

目黒アンジェリカほか
占い師ユニットやパーソナルカ
ウンセラーによる、手相、ルー
ン、タロットカード、西洋占星
術、断易など。10分500円のワ
ンコイン
占いなど



3号
会議室

このほかにも様々な展示・紹介があります。

※写真はイメージです。都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

お問い合わせは NPO 法人スーリールファム事務局へ
nfo@sourirefemme.or.jp

主催：NPO 法人スーリールファム

協賛：特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川、(有) 菊水堂、(株) 大喜コーポレーション

すーふあむ落語会

出演：三遊亭兼太郎、三遊亭じゃんけん
ゲスト：花仙（江戸太神楽）

2019年
10月27日
14:00～16:00

入場料：1800円 ※13時からの講座「初めてでもコワくない！ 歌舞伎鑑賞のイロハ」も入場いただけます。
全席自由席



「江戸太神楽」
花仙（かせい）

丸一仙翁社中
（まるいちせんおうしゃちゅう）。
東京都墨田区出身。2004年4月「江戸太神楽」鏡味小仙（現：丸一仙翁）社中に入門、花仙として活動開始。2020年に向けた抱負は、7年稽古して、2018年からやっとお客様の前で演らせていただくようになった「土瓶の曲芸」の精度を上げるために、さらに稽古に励みます！



三遊亭兼太郎

東京都東村山市出身 昭和64年1月2日生まれ
法政大学卒業後、サラリーマン、介護士と様々な職を転々とし、2013年三遊亭兼好に入門。前座名「けん玉」。2017年二ツ目昇進「兼太郎」。五代目圓楽一門会所属。明るく楽しい高座がモットーの若手落語家。2020年はオリンピックの熱に負けぬよう頑張ります。



三遊亭じゃんけん

大分県九重町出身
平成2年3月7日生まれ。
2016年2月4日、三遊亭兼好に入門。三遊亭兼好 二番弟子。前座名「じゃんけん」。初高座は2016年3月12日お江戸両国亭「両国寄席」、演目「八九升」。趣味は映画、自転車。来年に向け皆様に喜んでもらえるよう、たくさんネタを覚えて修行に励みます！

「すーふあむ落語会」ってなに？

熊さん ご隠居！ ちょっと聞きてえんですけど
うちのかみさんが

「すーふあむ落語会」やるってんで、
息巻いて出かけてったんすけどね。
すーふあむってナニ？

ご隠居 フム。すーふあむってえのは
スーリールファムを略してるんだよ

熊さん 3つの農場？

ご隠居 違う違う、フランス語で
「スーリール」は笑い。

「ファム」は女性じゃよ。
その2つをくっつけた造語が
「スーリールファム」。NPOの名前じゃよ

熊さん NPO？ なんすか、それ？

ご隠居 人生100年時代、人生後半を楽しむという女性たちが集まったのが
NPO法人スーリールファムじゃ。
起業あり、趣味あり、交流あり、
さあばまな「笑顔のきっかけ」づくりを
挑戦してる。今回は落語会に挑戦じゃ。

熊さん とりあえず落語で笑おうってことか？

ご隠居 笑う門には福来る。笑いは百薬の長。
一笑一若。眉間のシワより笑いシワ。

笑えばキラ細胞が増え
免疫力もアップらしいぞ。
健康にも美容にも笑うのはいいぞじゃ。

熊さん

カミさんがご機嫌になれば、
オレのこづかいあがるかも！
笑いは家計にもいいかも。
オレも行ってみよっと！



場所：横浜市開港記念会館 講堂 秋フェス！ブース会場は1階1号室ほか

横浜市中央区本町1丁目6番地 みなとみらい線「日本大通り」駅徒歩1分、
JR京浜東北線・根岸線、市営地下鉄「関内」駅徒歩10分

主催：NPO法人スーリールファム（神奈川県末産産業研究会会員、かながわ人生100歳時代ネットワーク会員）
協賛：特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川、(有)菊水堂、(株)大冢コーポレーション

【チケットのお申込み】

- ※予約方法：e-mail
- ※宛先：k.yasui@sourirefemme.or.jp
- ※件名：10/27 予約（お名前）
- ※本文：①代表者名（カタカナフルネーム）
②枚数
③返信アドレス

※振込先：ゆうちょ銀行 記号10940 番号19469781 トクビスーリールファム

他金融機関からの場合

店名 ○九八（ゼロキュウハチ） 店番 098 普通預金 1946978

チケットは当日、受付にてお渡しいたします。お振込みの控えを当日お持ちください。
※振込手数料はご負担ください。※お振込みの確認を待ちまして予約完了となります。
※ご返信に数日かかります。※座席は全て自由席です。
※キャンセル、当日欠席の場合でも返金はございません。

どなたでも
ご自由に
入れます

横浜市開港
記念会館

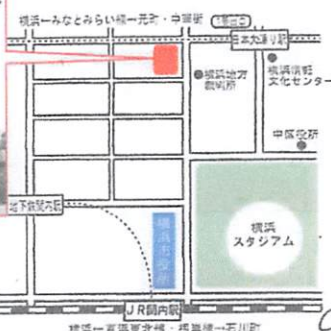
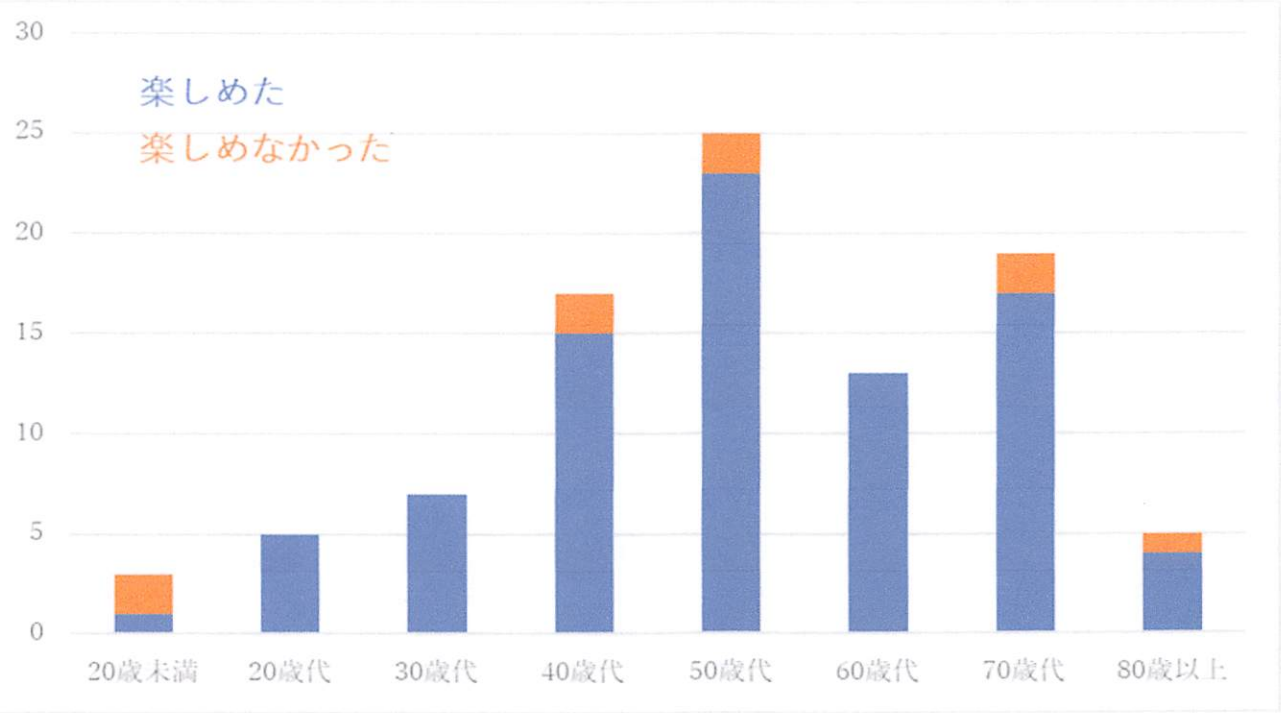


図2 アンケート回答者の年齢別 イベントの評価



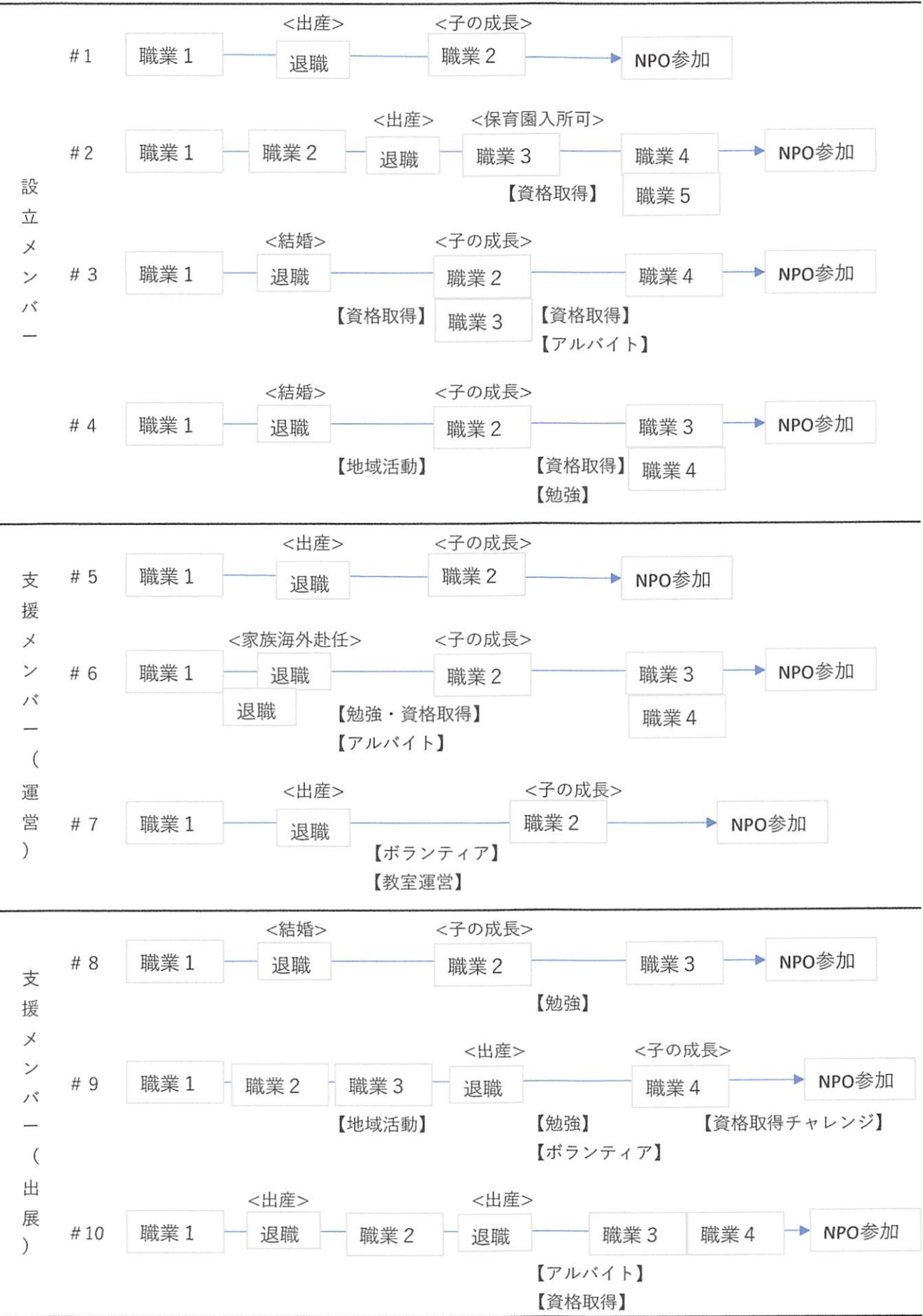
- ・性別による差は認められなかったのでまとめて示す。
- ・96名中88名が「楽しめた」と回答
- ・凡例の「楽しめた」は「とても楽しめた」と「楽しめた」の回答合計
「楽しめなかった」は「あまり楽しめなかった」「楽しめなかった」の回答合計

表5 楽しめた企画についての自由記述（抜粋）

講堂での企画	43名（45.5%）	・歌舞伎の話が具体的で面白かった
		・落語が素晴らしかった
建物・会場構成	21名（22.1%）	・脳トレ体操に刺激を受けた
		・ピアノの演奏が素晴らしかった
		・脳卒中の講演にひきこまれた
		・建物の雰囲気が良い
人の雰囲気	15名（16.8%）	・駅に近い建物なので来やすい
		・ステンドグラスが良かった
		・いろいろなブースがあってにぎやかだった
		・いろいろな年齢層がいて面白かった
		・皆さんが頑張っている姿を見られた
ブース出展	15名（15.6%）	・楽しそうに活動している様子をみてこちらも楽しめた
		・無料のポテチのお土産が良かった
		・珍しい紙芝居を見ることが出来た
		・いろいろな活動があり勉強になった
		・本格的な占いを安くやっていただけた
		・カッサが気持ちよかった

- ・回答者の性別や年齢による差異は認められなかった

図3 ヒヤリング対象者のキャリア変遷



との意見として表出した。今回は僅かな声であったが、無策のままでは拡大し円滑な活動の支障となる危惧がある。

今回筆者が来場者アンケートを実施し、その結果報告も含めたワークショップを企画したことで、ワークショップ参加者に対しては情報共有と意見交換、現状等に対する気づきの場を提供し、改善のための行動目標を設定してもらうことが出来た。これまでもイベント当日出席メンバーへの記入用紙配布と回収により課題と対策を把握していたとのことであるが、その内容を分析したり、メンバー同士で話し合いながら対策を検討する機会を持つことが難しかったという。しかし設立メンバーからの指摘にある通り「法人格を取って事業を行う以上、運営を継続させるのが使命」であり、そのためには「自己満足」ではなく、支援対象者や来場者にとって効果的な企画を、メンバーが納得して実施していく必要がある。そのためにはメンバーが定期的に集まり、目標設定と行動計画作成、計画実行、事後評価と課題の抽出、解決策の検討と行動計画の改善を、多角的な意見交換のもと実施する、いわゆるPDCAサイクルを導入し定着させていく必要がある。

さらに当該 NPO は単なるボランティア運動ではなく、活動メンバーが働きに対して対価が得られるような事業運営を目指している。とは言えイベント会場の使用条件の厳しさから、ブース出展数の減少や販売価格の抑制が発生し、現時点では実現できていない。ワークショップでこれらの現状を共有したことにより「企業広告や協賛を集めるべきである」「活動費の確保のためにイベント内容を企業に PR していきたい」といった意見が出されたことから、目標達成に向けた動きが見え始めた。これらの現状から、企業との連携を取りながら活動していくことが、「働く場」として NPO が機能していくためには欠かせないと言える。

この企業との連携に関して筆者は、イベントの協催やブース出展を依頼することに限定せず多様な活動を共に行うべきと考える。具体的には表 6 に示す活動をイメージしており、これらを通して相互理解が深めることが、育児中女性の働く場を多様化することに資すると推察するからである。

事業収益アップに関してはもう一点、ブース数増加を実現し出展料をより多く獲得することを目指している。ヒアリング時に「来場をきっかけに自分も出展したいと思う女性が増えると良い」という意見が少なからず出たので、アンケート調査にて来場者の出展意思を確認した。その結果図 4、表 7 に示すように「出展は考えていない」という回答が圧倒的に多く、その理由を分析すると来場者が「出展のハードルが高く方法もよくわからない」と考えていることが明らかとなった。とは言えこれらの来場者はハーモニカ、フルート、カラオケ、詩吟、俳句、ヨガ、フラダンス、スクエアダンス、太極拳、編み物、パッチワーク等を「仕事、家事、育児意外に楽しんでいること」として挙げていた。この結果からワークショップでは「楽しんでいることを紹介すればよいことを強調し、出展のハードルを下げる」「来場者の出展相談に乗れるようなコーナーを作る」との意見が出ていた。筆者は加えて NPO の

表6 育児中女性の働く場を多様化させるために資すると想定されるNPO法人と企業との連携活動

活動内容	地域の課題解決事業に共同で取り組む 交流会や勉強会を実施する 互いの職場体験を実施する
活動の タイミング	企業の休日やノー残業デーを利用して企画する
NPO法人 への メリット	地域の課題解決事業に取り組んだ実績を作ることができる 対象企業での就業に求められるマインドやスキルを把握できる 対象企業での就業における育児との両立状況を把握できる 企業での再就職を志すメンバーにとっては就職先の候補となり得る
企業への メリット	地域の課題解決事業に取り組んだ実績を作ることができる 法人メンバーのキャリア変遷を知ることにより自社社員がライフステージの変化に伴うキャリアプランを具体的に事前に検討することができる 育児中女性が働くことに対して求められる支援を具体的に把握することができる 自社の両立支援制度や制度の運用状況について見直すきっかけになる 性別にかかわらず社員が育児休業を取得しやすい風土づくりを進めるきっかけになる マタニティハラスメント、パタニティハラスメント防止を徹底するきっかけになる

図4 アンケート回答者の性別からみた次回の出展意向

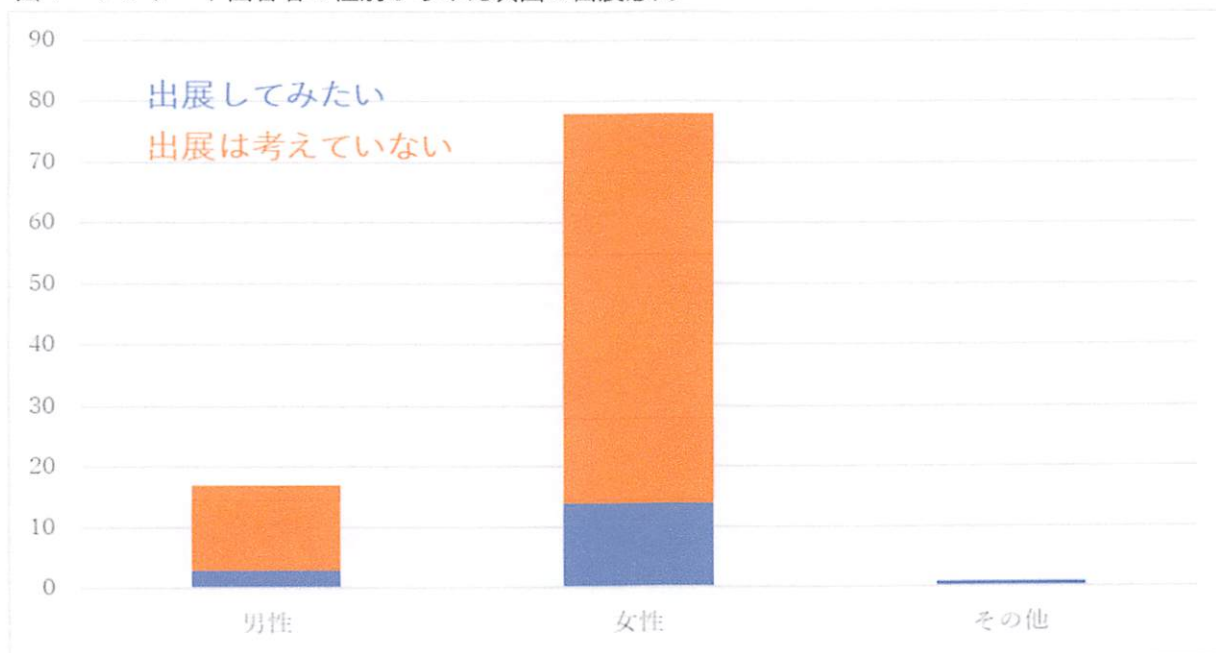


表7 「出展は考えていない」と回答した女性の年齢と回答理由

N=64

	～20	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～
見ている方が良い	3	4			1			
仕事・家事・育児・他の活動で忙しい			3	6			1	
どうしたら出展できるかわからない			1	1	2	2	2	
主催 NPO のメンバーではないから				2				
出展できるような才能や特技がない				4	13	6	8	
会場が遠い						2		
体力不足								3

活動目的や出展までのプロセスをブースあるいは講演にてメンバーが説明する必要があると考える。確かに事業経営上ブース数を増やすことは重要であるが、その場を楽しんで終わるような企画に変質させないためにも、楽しみが社会貢献に発展し収益を生む「仕事」につながり得るそのプロセスを示していくことが、活動目的を反映させたイベントづくりに求められる。こういった指摘は客観的な視座から行うことが有効と推察されることから、目的に沿った事業運営を継続させて行くために、第三者による活動支援が必要と判断した。

今後の課題

まず、NPO と企業との連携策に関する具体的な検証ができなかったことである。また、乳幼児期及び学童期の子どもを育てている女性がメンバー内に少なかったので、育児と仕事と両立が最も困難と言われている女性の立場から NPO 活動を十分に検証できなかったことも悔やまれる。引き続き当該法人の活動を支援しながら補足調査を行っていききたい。

なお選定委員の先生方にご指摘いただいた企業への再就職支援のための施策については、大学でのキャリア教育の再構築という観点から別途検討している。その他、抽出した残りの法人での調査実施による比較検討、在宅勤務の検証、育児に携わる男性の事例考察等、研究テーマに関して検討すべきことは山積している。多方面からのご指導・ご教示を頂戴しながら地道に調査研究を続けていきたい。

謝辞

公益財団法人小田急財団 2018 年度研究助成審査員の先生方及び事務局の皆様には、貴重な研究の機会と助成金を頂戴しましたことに心より感謝申し上げます。

本研究の成果は、共同研究者である NPO 法人セカンドリーグ神奈川の皆さま、調査をご快諾くださった NPO 法人スーリールファム関係者の皆様のご助力なしには出し得ませんでした。深謝いたします。

調査実施と結果の整理にあたっては、跡見学園女子大学赤松ゼミ生にご協力いただきました。記して感謝いたします。

参考文献

赤松瑞枝「既存住宅のリノベーションによる育児中女性の再就職活動支援拠点の創出に関する実証的研究—第二報 マザーズハローワーク利用者の実態からみた支援の方向性—」、『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』、24、55 - 71、2017

赤松瑞枝「既存住宅のリノベーションによる育児中女性の再就職活動支援拠点の創出に関する実証的研究—第三報 女性活躍推進法に関する企業の取り組みと女性の実状—」、『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』、26、135 - 154、2018

厚生労働省職業安定局「公共職業安定所の主な取り組みと実績平成 31 年 1 月」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000466373.pdf> (2020 年 1 月 12 日確認)

文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課

「女性の多様なキャリアを支援するための懇談会（第1回）議事要旨」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/008/gijiroku/021201.htm 2002（2020年1月12日確認）

内閣府 NPO 法人ポータルサイト <https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/>（2020年1月12日確認）

NPO 法人スーリールファムホームページ <http://sourirefemme.or.jp/>（2020年1月12日確認）

小野晶子「NPOの有給職員雇用の要因と変化—2004年と2014年調査データの比較から—」労働政策研究報告書(183)、35-52、2016

清水万由子・植田和弘「持続可能な都市論の現状と課題」、『環境科学会誌』、19(6)、595-605、2006

総務省統計局「平成29年度 産業構造基本調査」

<https://www.estat.go.jp/statsearch/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200532&tstat=000001107875&cycle=0&class1=000001107876&class2=000001107877&second2=1>（2020年1月12日確認）

鈴木紀子「NPO 法人における女性のキャリア形成—アンケート調査の検討を通じて」キャリアデザイン研究(12)、125-134、2016